

2020年1月29日
株式会社日本政策金融公庫
総合研究所

自営と勤務をボーダーレスに行き来する人の事業拡大意欲や起業意欲は高い

～「2019年度起業と起業意識に関する調査(特別調査)」アンケート結果の概要～

日本政策金融公庫(略称:日本公庫)総合研究所は、起業と勤務の垣根が低くなっている現状を確認するために、「ボーダーレス起業家」^(※1)「ボーダーレス勤務者」^(※2)について調査しました。主な調査結果と調査の要領は次のとおりです。

(※1) 現在事業を経営しており、その直前の職業は勤務者。かつ、過去に現在とは別の事業を経営したことがあるが、その事業からは退いている人。

(※2) 現在の職業は勤務者で、過去10年以内に自分で開業した事業を経営したことがあるが、その事業からは退いている人。

<主な調査結果>

1 ボーダーレス起業家やボーダーレス勤務者は、仕事において「収入」を最も重視(本文 2、5 ページ)

仕事をするに当たって「収入」を最も重視する人の割合は、ボーダーレス勤務者(43.1%)とボーダーレス起業家(38.1%)が、その他の起業家(26.0%)やその他の勤務者(37.0%)に比べて高い。また、ボーダーレス起業家やボーダーレス勤務者は、正社員や非正社員として勤務した社数がその他の層に比べて多い。

2 ボーダーレス起業家は、事業の拡大志向が強い(本文 9、14 ページ)

ボーダーレス起業家は、その他の起業家に比べて開業時の従業者規模がやや大きく、起業費用も高い。今後の事業規模については、売上高、従業者数ともに「増やす」という割合がその他の起業家を上回っており、事業を「承継したい」という割合も相対的に高い。

3 ボーダーレス起業家は仕事のやりがいやワークライフバランス、ボーダーレス勤務者は収入について「満足」(本文 20 ページ)

ボーダーレス起業家は、仕事のやりがいに「満足」している人が60.2%と多く、ワークライフバランスに「満足」している割合(54.2%)もその他の層に比べて高い。一方、ボーダーレス勤務者は、収入に「満足」している割合が38.8%とほかに比べて特に高い。

4 ボーダーレス勤務者の4割以上が「勤務するよりも自分で事業を経営したい」(本文 21 ページ)

ボーダーレス勤務者の42.5%が「企業に勤務するよりも自分で事業を経営したい」と回答しており、同割合はその他の勤務者(14.0%)に比べてかなり高い。

<調査の要領> ・調査時点:2019年9月

・調査方法:インターネットによるアンケート

・調査対象:全国の18歳から69歳までの男女

・回収数:2,545人

*本調査の詳細につきましては、[こちら](#)をご覧ください

<お問い合わせ先>

日本政策金融公庫 総合研究所 小企業研究第一グループ TEL 03-3270-1687(担当:桑本、青山)

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-9-4 大手町フィナンシャルシティ ノースタワー